
単元名 【責任ある発信】（基本・応用）

取扱い学年 小学校4年～中学3年生

時間数 1時間

目 標

ホームページに公開する内容は何を載せてはいけないのか？ それを掲載するとどのようなことが起こるのかを考える。特に見る人の立場によって感じ方が異なることを意識する。

ホームページに載せたらいいことは何か、それをどのように表現したらいいのかを考える。

「情報を発信するもの」として考慮しなければならない「責任」とは何かを意識し、ホームページをつくるときの心構えを身につける。

評価点

ホームページに載せるべき事柄として不適当なことをが何かを把握している。

それを公開するとどうということが起こるのかを知っている。

ホームページに載せたらいいと思うことを知り、その理由を意識している。

責任ある発信とはどのようなことかを、事例に基づいて考えることができる。

授業のポイントと展開（授業例）

【導入】

1. 児童や生徒のつくったホームページのいろいろな例を見せる。

例 学校の紹介のページ、クラスやクラブの紹介のページ、個人の日記を公開している例

2. 今日ホームページで発信するとき心がけなければならないことは何かを考えることが目標であると説明し、「責任ある発信」というタイトルを黒板に書く。

【展開 1】

3. 教材ムービー『責任ある発信（基本編）』をひととおり見る。

4. それぞれ登場人物の気持ちをかながえてみよう。（画面をもう一度振り返ってみながら、それぞれの画面で児童生徒に問いかける）

画面3

カオルさんは、どういう気持ちで学校のことをいろいろ書いてみようと思ったのか？
なぜそれが「面白い」と思ったのか？

画面 4

このページを見て、「おもしろい」と感じたひとはいるであろうか？

もしいたとしたらどういう人か？

自分のことを書かれたマリナやケンタ君の気持ちを想像してみよう。

それを書かれてそれぞれどういう気持ちを持っただろうか？

もしあなたがこういうことをホームページで書かれたら、どういう気持ちを持つだろうか？

この二人のことを知っているクラスの他の友達がこれを見たら、どう感じたであろうか？

マリナやケンタ君の家族がこのページを見たら、何を感じたであろうか？

あなたが他の学校の児童であるとして、このページを見てどう感じたであろうか？

画面 5

先生はなぜカオルさんに注意したのだろうか？

カオルさんは先生から注意されてどんな気持ちだったのだろうか？

5. では、カオルさんは「学校のことでおもしろいこと」をかくとしたら、何を書いたら良かったのか？

そもそも学校のことを書くことじたいが良くない。何か別のことを書けば良かった。

たとえばどのようなことだったら良かったか？ それはおもしろいことか？

マリナやケンタ君の名前を出さずに匿名にして書けば良かった。

その人のいいことや誉めるような内容だったら良かった。

このような個人的なことは書くべきではない。

もし、そうだとしたら、何を書いたらいいのか？

読む人が「おもしろい」と感じることはどういうことだろうか？

【展開 2】

6. 教材ムービー『責任ある発信（応用編）』をひととおり見る。

7. もう一度画面を見ながら、それぞれの画面で問いかける。

画面 4

なぜリカコさんは、この「スーパー」の情報を載せようとしたのか？

画面 5

それを読んだあなたはこれを見てどう思うだろうか？

近所の人はどう思うだろうか？

画面 6

このスーパーのお店の人はこれを読んでどう思うだろうか？

このスーパーの人からのメールを見て、リカコさんは何を感じたであろうか？

8. では、リカコさんはこのスーパーのことを書くとしたら、どのように書けば良かったのか？

児童生徒にいろいろな考え方を出す。もし出てこなかったら、問いかける。

商品が古いとか新鮮だとかいう曖昧な表現ではなく、もっと具体的に書けば良かった。写真を添えたり、商品ごとの製造年月日を比較したり。

商品の値段を添えて、価格比較を載せたらいいと思う。これだったら「事実」だからスーパーの人も文句は言えないはずである。

書き方が良くないのではないかと。こういう意見もある。という書き方をすれば、良かった。そういう意見があることは「事実」だから。

そのスーパーについての「良い点」を書けばいい。悪いことを書かなければいいのではないかと。

お店の人の意見も載せたらいいのではないかと。

反論するチャンスを与えたらいい。

お店の人のお買い得情報とか、おすすめ商品情報とか、お店の人が得するような情報も載せたらいい。

そもそもスーパーのことは書くべきではない。なぜなら……………

【まとめ】

9. この二つのムービーを見て、話し合ったことをもとに「責任ある発信」のありかたについて気がついたことを出し合う。

10. 出されたことをもとにポイントをまとめる。

そのページを見る人の立場によってずいぶん受け取り方が違う。とくにそれに関わっている人の気持ちを配慮して発信する必要がある。

もしも自分が書かれた方の立場だったらどういふことを感じるかを想像しながら、相手の立場に立って、考えることは大切なことである。

特に「利害が対立」する場合の書き方にはどういふ注意が必要か。

そもそもそういうことは書かない方がいいのか？

書いたほうがいい場合があるとしたらどういふ場合か？

そういう時の書き方、表現方法として配慮すべき点はどういふことか？

「おもしろい情報」「役に立つ情報」とはどういふものかを考えてみる。

自分が良く見るホームページの中で、おもしろいページ、役に立つページをあげて、何がおもしろいのか、役に立つのかを発表する。

【発展】

11. 中学生高学年だったら、そのような「利害が対立」する場合のホームページの例を出して、そのことについて話し合うのもいいであろう。

たとえば、スーパーの批評とかファーストフードの比較とかの大人がつくったホームページを紹介する。

あるいはいわゆる「告発サイト」の例を出して、そのことを話し合うのもいい。

「少数派の意見を表明する」ことができるというインターネットのメリットにも触れて

おくべきであろう。

12. ホームページを批評する態度を身に付けよう。

ホームページの中に載せられている情報はどこまで信頼できるのか？

何がおもしろいのか、なぜおもしろいのか。

役に立つ情報とは何か？

ホームページに載せたらいいこと、載せてはいけないこと、その基準は何か？

13. 学校のホームページで、学校やクラス、クラブの紹介をするときに、どのようなことを載せたらいいのか？ それをつくるときにどのようなことを配慮しなければならないのか？

©2001 IPA,CEC Eスクエア・プロジェクト「ネット社会の歩き方」